

岡本 尚文氏 著作紹介

岡本 尚文／監修、写真 普久原 朝充／建築監修

『沖縄島建築 建物と暮らしの記録と記憶 OKINAWA ARCHITECTURE』

トゥーヴァージンズ (2019年)

岡本尚文氏がディレクションと写真を手がけた本です。第6回沖縄書店大賞・沖縄部門〈準大賞〉を受賞しました。

日本全国それぞれの地方に独自の建築スタイルが存在するものですが、沖縄県の建築の景観は本土とは大きく異なっています。たとえば県外からの訪問者は、空港から降り立ってすこし街中を走ってみればすぐに、その独特な人工の景観に気がつくのではないのでしょうか。

この『沖縄島建築』は、そのような沖縄独特の建築物にあらためて目を向けさせてくれる本です。沖縄の建築の歴史を体現する10の建築物(ホテル、旧役場、個人商店など)を取材し、図解・歴史・建築構成の見どころ、ゆかりある人々への聞き取りを通じて、単なる「建築ガイド」にとどまらない奥行きを見せてくれます。

この10の建築物のほかにも多くの建築が紹介されており、きっとだれでも「以前からひそかにお気に入りだった建物」「なんだか気になっていた建物」「この本で初めて存在を知り見に行きたくなる建物」など、発見を得ることができるはずです。そもそも建築とはそれのみで存在するわけではなく、それを使う人々や生活とともに成り立つものなのだと感じさせられます。

なぜこんなかたちをしているのか？ いつからここにあるのか？ どんな人々がこのなかにいた / いるのか？ ふだん何気なく目にしている「沖縄の建築物」を多角的な視点で眺めるきっかけになるのではないのでしょうか。ここで気になる建物が見つかったら、ぜひ実際に足を運んでみてください。

岡本 尚文／著『沖縄 外人住宅 01 OKINAWA 01 OFF BASE U.S. FAMILY HOUSING』

ライフ・ゴーズ・オン (2008年)

岡本尚文氏による一冊目の写真集です。この写真集に収められている風景は、タイトルのとおり「外人住宅」であり、沖縄在住者であればだれも見知ったものであるはずです。しかしそれらがこうして写真として紙のうえに定着させられ、強調された無人の風景となることで、立ち上る違和感や反省があるように感じられます。

この風景が今わたしたちの周りには、県民の意思とは無関係に沖縄がアメリカの統治下におかれた過去があるからです。しかしそれを一義的な負の要素と決めつけてしまうには状況は複雑で、隣り合わせの「アメリカ」と折り合いをつけていくなかで醸成された沖縄独自の文化もたしかに存在しています。この複雑さは、この写真集に見られる「ありふれた沖縄の風景」のなかにもはっきりと落とし込まれています。

県外出身者の撮影者の目線であればこそ写し取れたものではないか、と思わせる一冊です。

岡本 尚文／著『沖縄 02 アメリカの夜 OKINAWA 02 A NIGHT IN AMERICA』

ライフ・ゴーズ・オン (2016年)

一冊目の写真集『沖縄 外人住宅』から8年ほど間隔をあげ、その間に撮影された写真をまとめた二冊目の写真集です。

『沖縄 外人住宅』が日中の風景であったことに対して、今回はすべて夜の風景となっており、個人向け外人住宅ではなく、基地そのものや米軍人を顧客として発展した沖縄の街の様相が収められています。

岡本氏はこれらの風景を指して「夜に現れる沖縄のアメリカ」と述べています。その言葉が示す通り、この写真集に見えるのは「純然たるアメリカ」でもなく、「純然たる沖縄」でもない風景であり、『沖縄 外人住宅』と同様のテーマを志向していることがうかがえます。